

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 宮城県利府高等学校

【テーマ】 I II ㊦ IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるスポーツを通じた社会参画に関する研究

【実施学年、部、講座等】

第2学年（男子59名・女子21名）

【目的・ねらい】

- 障害者スポーツの体験を通して視野を広げさせることで、スポーツへの多様な関わり方を学ぶ。
- 2020東京オリンピック・パラリンピック競技会への関わり方を考えさせる。
- 様々なスポーツの振興発展に寄与できる資質や能力を育成する。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科（スポーツ総合演習）・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

本校では平成27年9月25日(金)に、ソウルパラリンピックにおいて、柔道86kg級で金メダルに輝いた宇和野康弘先生を招聘し、スポーツ講演会を行いました。宇和野先生は「スポーツと私」と題し、幼少期の生活や中学1年生で失明してしまっからの葛藤や想い、パラリンピックで金メダリストになるまでの柔道人生の歩み、現在の生活や障害者スポーツの現状に至るまで、幅広い分野にわたってお話をしてくださいました。また、視覚障害者に会った際、どのように声をかけるのがふさわしいのか等、普段はなかなか聞くことのできない貴重な話も聞くことができました。なかでも、生徒たちの心に強く印象に残ったのは、「自己を成長させるための4つのポイント」というものでした。

1. 身近に目標をもつこと(自分の努力で叶えていくことのできる目標)
2. 自分の中に課題意識をもつこと(必ず課題をもって練習し、マンネリ化しないこと)
3. 自分の性格・素質・体質をしっかり知ること(それを知れば自分の生かし方がわかる)
4. 憧れや大きな夢をもつこと(それを日々意識することにより、きつい練習も乗り越えられる)

今回、宇和野先生の講演を聞いたのは、本校2年次スポーツ科学科の生徒であり、全員が日々部活動に励んでいることから、上記の4点について、自分自身のことに置き換えながら話を聞いていました。また、生徒たちは宇和野先生が獲得した金メダルを実際に触らせてもらい、それを手中に収めるまでのご苦労や努力を身にしみて感じていました。



また、本校では2年次スポーツ科学科のスポーツ総合演習という授業において、パラリンピックの正式種目である「ゴールボール」と、日本発祥の障害者スポーツである「フロアバレーボール」の体験を行いました(本年度は2時間×5日間で、計10時間)。生徒たちは初めて触れる競技に最初は戸惑っていましたが、ルールを理解して実践していくうちに、スポーツに真剣に取り組む障害者の方々の気持ちを感じ取ることができたようです。また、健常者が障害者スポーツにどのように関わることができるのか、についても各々考えることができました(以下は意識調査アンケートの結果より)。

・障害者スポーツを体験して、実際に障害者の気持ち、恐怖や不安感などを味わうことができた。健常者である人たちがしっかり手を貸していきたい。

・目の見えない状態は思っていたよりも不便なことが多く、その中でスポーツをするのはすごく難しいと思った。

周りからの声がけももっと的確に行えたら良いと思った。

・視覚障害者の立場を体験してとても怖かったです。周りの音などに敏感になって、助けてもらうととても楽だということが分かりました。外出先などで困っている障害者がいれば助けようと思いました。



ゴールボール



フロアバレーボール

(実践上の工夫点、留意点等)

本校では、ゴールボールの学びを深めるために、本年度の予算を有効活用し、ゴールボールのゴール(簡易的なもの)を作りました。それによって、生徒たちはより一層ルールを理解するとともに、視覚障害者の立場に立って活動することができたようです(授業中の生徒との会話から)。

(成果)※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

障害者スポーツの授業後に意識調査を行った結果は下記のとおりです(回答:80名中、70名)

<質問>あなたは「障害者スポーツ」を学習して、ためになりましたか?

はい(92.8%) / どちらかといえば、はい(7.2%) / どちらかといいえ・いいえ(0%)

<質問>障害者スポーツを体験して、どんな感想をもちましたか?

(ア)この経験を生かして、将来は障害者スポーツに携わってみたい(5.7%)

(イ)この経験を生かして、今後も障害者スポーツの勉強を続けてみたい(11.4%)

(ウ)障害者スポーツというものに興味を持つことはできた(82.9%)

(エ)障害者スポーツを体験したが、今後のこの内容を深めるつもりはない(0%)

生徒たちは、この授業を通して、障害をもった方たちと手を取り合って、スポーツを楽しむことの重要性を認識したようです。今後の課題は、「障害者スポーツというものに興味をもつことはできた」から「障害者スポーツに携わってみたい」「勉強を続けてみたい」という生徒を増やすことです。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

来年度以降の課題は、学習した内容を実際の障害者大会等で実践できるか(学び→現場での実践)ということです。2020年に向けて、生徒たちにより多くの実践を積みさせる(障害者とともに活動する競技者として、または支援者として)ために、どのような団体と関わればよいのか、オリンピック・パラリンピアン、さらにはトレーナー等とつながりを持てるのか(体験談を聞く機会の設定等)が課題だと思います。